

優秀賞

# メタバース空間を活用した 地域で取り組む防火防災啓発活動



## 愛知県 豊田市消防本部

事例類型	Ⅲ 効率化 Ⅳ 他団体との連携 Ⅵ 広報活動 Ⅶ デジタル化
取組期間	令和7年4月から

### ● 背景

〔地域〕 豊田市の足助地区は、東海地方随一の紅葉の名所と評される「香嵐渓」（月に60万人）や、防火を目的とした塗籠造りの町屋が残る「足助の町並み」を有し、歴史的景観が評価されたことで「重要伝統的建造物群保存地区（国文化財）」に選定されている観光地である。豊田市消防本部（以下「当消防本部」という。）はこの地域の住民向けにイベントを毎年開催し、防火防災意識の向上を図っている。

〔課題〕 気候変動で熱中症のリスク・中山間地域で管轄が広く移動距離が長い・高齢化や人口減少が進み担い手の減少・育児や入院等を理由に行事参加が難しい・観光地としての保存と市民や観光客の安全性の向上。以上のことから幅広い世代への持続的な取組が必要。

⇒「豊田市メタバース将来ビジョン」に基づき構築された仮想空間「メタバースとよた」（「cluster」内）を活用し、インターネット環境があれば誰でも参加できるイベント「足助消防署ふれあい広場 in メタバースとよた」を開催した。

### ● 内容

1 イベント開催日時 令和7年10月4日（土）午前10時から1時間

2 人と人をつなげる“メタバース”活用のポイント

- 現実でのイベントに参加できない住民への防火防災啓発
- 足助地区の防火の視点からの魅力発信と観光客誘致
- 現実でのイベント「足助消防署ふれあい広場」への集客につなげるプレイベント

3 メタバースの内容

(1) 医療機関をサテライト会場に（※1）

足助消防署の管内に位置するJA愛知厚生連足助病院（2次救急病院）をサテライト会場として開設した。



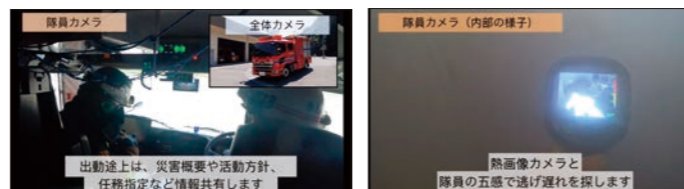
（※1）足助病院サテライト会場の様子

(2) 関係機関と連携し、防火からの視点で地域（文化財）の魅力発信

（一社）豊田ドローン協会が保有する空撮の動画作品と、豊田市足助観光協会保有の色彩豊かな写真で「観光地としての魅力」と「先人が施した防火の取組」を紹介。

(3) 「煙の怖さ」をテーマにした没入感の高い映像放映（※2）

火災指令から屋内検索までの一連の火災出動（訓練）を編集し、臨場感のある「消防士出動動画」を作成した。消防の活動を紹介するとともに、屋内検索時の濃煙で視界がなくなる怖さを主観的に体験できるようにした。



（※2）火災の怖さをテーマにした「消防士出動動画」



イベント開催チラシ

- 地元高校生が考えたデジタル防火絵本を作成し読み聞かせ（※3）  
足助消防署管内にある愛知県立足助高等学校の生徒とミーティングを重ねながら、高校生の視点で作成したデジタル防火絵本「だいじなやくそく」の読み聞かせ動画を放映することで、防火意識の大切さを伝えるとともに、作成した高校生の郷土愛と防火意識を醸成した。



（※3）地元高校生が考えたデジタル防火絵本「だいじなやくそく」

4 メタバースイベント開催に向けた広報活動

(1) 教育関係機関

ア 放課後児童クラブ、豊田市こども・若者総合相談センター、豊田市青少年相談センターへチラシを配布し、来場による参加が難しい方の参加を促す。



イ 足助消防署管内全てのこども園の保護者にイベント説明会を開催。説明後に消防車両を展示して幼年世代から消防に触れて親しむ場を作る。



メタバース空間（cluster）当日の様子

(2) cluster内での広報

豊田市外の居住者に向けて当消防本部の紹介及び足助地区の魅力を発信するために、clusterアプリ内で広報を行い、イベントの参加を促した。

### ● 成果

1 定量的な成果

- 延べ222人が参加（メタバースとよた開催イベントで2番目の参加者数）し、アンケート結果から、約95%の参加者が「楽しく学ぶことができた」と回答。参加者の防火防災の意識を醸成することができた。
- アンケート結果から、約90%の参加者が「足助地区を観光したい」と回答。足助地区への観光客誘致、地域の活性化に寄与した。
- アンケート結果から、約77%の参加者が「足助消防署ふれあい広場」に参加したいと回答。令和7年度に初めて交流館祭等と同時開催する運びになったが、延べ2,500人（昨年度比1,500人増）の住民が参加。多くの方々実際に消火器や煙を体験することにつながった。
- 医療機関をサテライト会場とすることで、入院により来場による参加が難しい方への防火防災啓発をすることができた。

2 定性的な成果（現実と仮想の融合による新たな可能性の発見）

- メタバースでは、利用者同士がコミュニケーションをとり、人と人のつながりができた。コメント投稿機能により、リアルタイムで関心の高さがわかると同時に迅速なコメント対応ができた。
- 消防士出動動画では、消防士目線での活動を体験できるように工夫し、今まで体験不可能であった「災害」のイメージをつけることで、理解促進に寄与した。
- 昨今の気候変動等による熱中症対策が急務であり、外部環境の影響を受けずにイベントを開催することができた。
- 高校生を足助消防署に招待し、実際に消防署で様々な体験をすることで、絵本のイラストデザインに反映させられ、その後、能登半島地震へのボランティアに行く生徒や、消防士を志す生徒が現れるなど、防火防災意識を醸成できた。また、令和8年度から愛知県立足助高等学校に「観光科」が新設されることを踏まえ、今後も継続して高校生と共同事業を行う予定となり、活動の拡がりを見せている。
- イベントに参加できなかった方々に対しても、作成したデジタル防火絵本を豊田市電子図書館や豊田市防災学習センターでも常時視聴できるようにした。

### ● 特記事項

デジタル化の推進により、市民の生活は時間と場所の制約から解放され、便利で豊かになっていく中で、当市でも「第2次豊田市デジタル強靱化戦略」（2025年）を策定し、市民サービスの更なる質の向上に取り組んでいる。生き方が多様化する中で先進技術×消防で合致する案件を充実させ、市民への防火防災啓発へとつなげていく。